

平成26年度 都立府中東高等学校経営報告

今年度の取組と自己評価及び次年度への課題

1 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

① 学習指導の充実を図る。

自己評価

- ・ 初任者、2年次、3年次等の若手の教員に対し、昨今特に求められている力（思考・判断・表現）をつけるための授業の工夫に関する研修会を実施するとともに、求められる授業について考える時間を設定し、求められている授業実践を研究授業として実施したところ、20名程度の中堅・ベテラン教員が参観した。
- ・ 学校評価より「79.1%」（生徒の授業満足度）
- ・ 習熟度別授業、少人数指導を着実に実施し、英語・数学・家庭科の授業充実を図ることができた。普段の日の補習・講習等については、土曜日も含め各学年英語・数学を行った。長期休業中を含め計56講座を実施した。

課題

- ・ 生徒が落ち着いてきたこともあり授業規律が確保できない授業は無くなった。しかし、依然として授業に意欲をもてない生徒が存在するため、ICT等を活用した授業の推進、机上に不必要な教科書のタワー積み無くす等の取組が必要である。
- ・ 読書掲示板を渡り廊下に設置、HP上で新入荷図書の紹介を行うなどの工夫により、生徒の来館者数や貸出数の増加は図れてはいるが、さらなる工夫が必要である。

② 体系的な進路指導を推進し、希望進路の実現を図る。

自己評価

- ・ 進路指導部が主導的に学年を跨って進路指計画をたて、どの学年やクラスによって差がない進路指導ができてきている。
- ・ 大学進学から就職（公務員）まで生徒の希望進路は多種多様となっていることを踏まえ、いずれの進路についても充実した対応が可能となってきた。GMARCHを希望する生徒がいる一方で就職者が30名（公務員6名）という状況であり、中堅校である本校の役割を果たすことができた。
- ・ 進路指導部が生活指導部や学年と連携し、身だしなみに関する指導を徹底することで、日ごろからの生活を改善し、面接等に強い生徒を育成できた。
- ・ 学校評価より「78.2%」（生徒の進路指導満足度）

課題

- ・ 大学への進学希望が増加している中、校内模試を1年生の時から計画的に受験させていく指導を、学年と連携しより計画的に行っていく必要がある。

③ 基本的な生活習慣の指導徹底し、生徒理解の深化を図る。

自己評価

- ・ 集団生活のマナーについては概ね落ち着いてきたといえる。
- ・ 特別支援教育推進委員会、教育相談推進委員会を計画的に行い、スクールカウンセラーとの連携により、SCによる1年生の全員面接、SCによるいじめや特別支援教育に関する校内研修を実施した。「いじめ」に関しては、極めて早期（可能性）の段階で指導に

入ることができており、深刻化することを防いだ。

- ・ 学校評価より「73.3%」（生徒の生活指導満足度）

課題

- ・ スマホを見ながらの自転車の運転等の指摘が近隣から寄せられることがあるので、自転車の運転マナーや改正道路交通法について周知していく。
- ・ 特別指導の件数は減ってきたが、見えないことがあることも視野に入れて、一層生活指導を充実させていく。部活動への加入率を増加させ、部活動を通じた生活指導をより推進していく。

④ 部活動・特別活動等の充実を図り、学校生活に意欲をもたせる。

自己評価

- ・ 部活動の充実がかなり図られてきた。和太鼓部3年連続全国トップレベル、女子バレー部は都32、女子バスケは都32、ボクシング部は連続で関東出場などとなっている。また、ホームページを一新し、部活動のページを充実させたこともあり、スポーツ推薦では、サッカー部が7倍を超えるなど、部活に強い府中東高校のイメージが近隣中学校に定着し始めている。また、生物部・茶道部・吹奏楽部が全国規模の開会を含め様々な大会に出場を果たすなど文化部も充実してきた。
- ・ 文化祭は今まで度土曜日を保護者のみの公開としてきたが、今年度は中学生とその保護者に拡大した。来客数が大幅に増加するとともに、内容の質の向上が図れた。来年度は両日一般公開となる。
- ・ 学校評価より「76.1%」（生徒の部活動満足度）

課題

- ・ 加入率が目標の80%に到達していない。「部活動充実校」を銘打っているので、学校としての文武両道をさらに推進していく。
- ・ 広報活動をさらに工夫し、推進していく。

⑤ 入りたい学校を目指すため、広報活動に力点をおき、入学者選抜の倍率を確保する。

自己評価

- ・ 近隣中学校への高校説明会には積極的に参加し、昨年を超える中学生の保護者からの関心を集めることができた。
- ・ 学習塾を100校以上まわり、概ね7割の学習塾から本校に対し好意的な評価を頂いた。
- ・ 府中市をはじめ、稲城市、調布市、多摩市などのPTA等が主催する高校説明会では、昨年を上回り椅子などを急きょ増設する状況となった。
- ・ 文化祭においては、従来本校保護者のみの公開としてきた「土曜日開催」を中学生とその保護者にまで広げ、計546名の来場者を得ることができた。

課題

⑥ 組織的な学校運営を推進し、生徒・保護者等への学校の満足度を高める。

自己評価

- ・ 企画調整会議が機動化し、分掌間の調整が十分に図れるようになったことから、一層学校運営が組織化できた。
- ・ 学校評価より「83.3%」（保護者満足度）

課題

保護者の満足度は80%を超えている。今後もこの数値以上を継続できるようにPTAと連携していく。

(2) 重点目標と具体的な目標

① 学習指導の充実を図る。

- ・ 補習及び講習 毎週実施 →土曜日を含めほぼ毎週実施
- ・ 長期休業中の補習・講習 50講座以上 →ほぼ達成(46講座)
- ・ 未読書率 30%以内 →本年度調査なし

② 体系的な進路指導を推進し、希望進路の実現を図る。

- ・ センター試験受験者 65名以上 →109名(大きく達成)
- ・ MARCHクラスへの合格者 5名以上 →4名
(他に国公立大学合格 2名 大きく達成)
- ・ 4年制大学への進学率 50%以上 →43.2%(やや低下)
- ・ 進路決定率 90%以上 →86.8%(やや低下)

※本校は、生活指導・部活動に力点を置くことで生徒が非常に落ち着いてきた。その結果、中途退学者が極めて減少してきていることと、就職・公務員希望者が非常に増加(14→33名)してきたことから、数値的には4年制大学への進学率が減少しているが、合格者数は逆に向上(121→128名)している。また、卒業者数は、254名から296名に増加しており、積極的な浪人生もやや増加した。

③ 基本的な生活習慣の指導徹底し、生徒理解の深化を図る。

- ・ 茶髪 0 →達成した(染色は0)
- ・ 遅刻 4月当初の遅刻者数を3学期までに3分の1以下にする →約半分の達成
- ・ 特別指導件数 5件以下 →6件(25年度比半減)
- ・ いじめ、体罰 0件 →0件
- ・ 装飾品等への指導着手 →儀式的行事

④部活動・特別活動等の充実を図り、学校生活に意欲をもたせる。

- ・ 部活動加入率80%以上 →67%
- ・ 関東大会 出場 →達成
- ・ 全国大会 出場 →和太鼓部全国2位

① 入りたい学校を目指すため、広報活動に力点をおき、入学者選抜の倍率を確保する。

- ・ 推薦入試 3.5倍以上 →4.1倍(達成)
- ・ 入学者選抜倍率(前期入試)を都立高校平均以上 →1.59(都平均1.54)達成
- ・ 学習塾対象学校説明会参加者 10名以上 →4名
- ・ HP年間アクセス 25万回以上 →10万4千(目標値の再確認)
- ・ 学校説明会来場者数 1500名以上 →1,511名
- ・ 学校見学者数 1000名以上 →1347名

② 生徒や保護者・地域から満足 of いく学校をつくる。

- ・ 生徒学校満足度 80%以上 →85.8%
- ・ 保護者・地域の学校満足度 80%以上 →83.3%(保護者)
100%(学校運営連絡協議会協議委員)

- HPのデザインを一新し見やすく・わかりやすくしたことから、一般の方からの部活動等(トラチャレなど)への質問が増加した。また、今年度、サッカー部のHP等による広報活動が非常にうまくいったことから、部活動をはじめのHPにおける広報の重要性が一層増していることがわかった。今後は、他の部活動を含めHPによる情報発信をより重点的に行う。
- 特別指導の件数が昨年度の13件から6件に半減した。学校がかなり落ち着いてきていることがわかる。しかし、指導を緩めると特別指導に発展しそうなケースが依然として存在(至る前に指導に入っている)するため、生活指導の充実は今後も引き続き重要である。
- 本校を第一希望とする生徒が確実に増加し、推薦・前期募集では昨年を超える倍率となった。地域(周囲)に認められる学校となってきたことを受け、日ごろの学習活動をベースに、部活動実績だけでなく進路実績との両面で地域(周囲)の期待に応えていく必要がある。